

自己評価票

A棟

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	創立当時より事業所としての運営理念を入り口付近の中央廊下に掲示してうる。又、全職員が就業前後に再確認出来る様、タイムカードのところにも掲示している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の勉強会やスタッフ会議・研修会等への積極的参加により、全職員が運営理念実現へ向けて取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の方々に対して広報の発行や施設行事等で周知の徹底を図っている。(パンフレット等に必ず印刷し、理解を得るよう努力している。)	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	自治会・小学校等の地域活動に積極的に参加し、地元の人々との交流を深める様努力している。又、地域代表者の出席のもと施設運営会議を開催している。(施設周辺を利用者と共に散策した時は、公園等で積極的に地域住民に挨拶をし、交流が出来る様に心がけている。)	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価後、全体会議で留意点や指摘事項の改善策を検討しあい、サービスの質の向上や評価の意義を認識している。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議参加者の率直な意見を取り入れ、施設サービスの質の向上につながる様、スタッフ会議（棟会議）でも検討している。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携を密にし、ホームが直面している運営課題やサービスの質向上等の解決に向け積極的に取り組んでいる。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会等で成年後見人制度については、認識している。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、スタッフ会議で取り上げ意見交換し、見過ごしの防止にも取り組んでいる。又、高齢者虐待防止法の活用ハンドブックを常備し、いつでも職員が見ることが出来る様にしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、家族に充分説明を行い理解及び同意を書面にて得ている。 退居の場合も本人や家族と充分話し合い、納得の行く退居先を確保出来る様支援している。		
11 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、本人の意見や不満など家族へ申し出ていないか等尋ねる事で確認し、今後の対応に生かせる様にしている。（事務のカウンターにご意見箱を設置し、随時、記入出来る様にしている。）		
12 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	状態変化時・面会時・ケアプラン作成時・認定調査前など、常時家族へ報告している。金銭面では、毎月請求書と共に預かり金の明細をコピーしレシートと一緒に送付している。（年2回は家族から確認印を戴いている。）		
13 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を呼びかけ、家族の意見などを外部へ表せる機会を設けている。		
14 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議開催時に職員との意見交換や提案を受け、施設運営に反映している。		
15 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化や急変時に、必要に応じた柔軟な対応が出来る様ローテーションシフトを組んでいる。又、実際に対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動・担当者の変更時は、利用者の心理的負担等を最小限に抑える為、情報の共有・引継ぎの徹底を図る様にしている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自治体及び社会福祉協議会等主催の研修会へ参加し職員の研鑽の場を増やす様心がけている。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・地元の協会員として活動に参加し、交流を深め意見交換・情報収集により施設の質の向上に取り組んでいる。又、他施設と随時連絡を取り合いサービスの質の向上に反映する様にしている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	行事やレクリエーション等を通じ意見交換し相互の理解を深める努力と環境作りに努めている。定期的にミーティングの時間を設ける事により、コミュニケーションを図っている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の特性を活かせる配置や担当者の選任等に考慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に担当ケアマネを通し、事前面接を行い状況を把握したうえで、本人及び家族と話し合う事により希望等を取り入れる様にしている。入居前に必ず本人と家族に施設見学をして頂く事で不安等の解除が出来る様に努めている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者にとって（個々）のニーズは何かを常に意識し、日常生活の状況を把握し理解する事で早期対応が出来る様、ケアプラン上に組み込み、対応している。又、スタッフとの関わりについても話し合いを常にしている。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、ホームの見学と本人・家族との話し合いをしている。利用者の不安を取り除く為、使い慣れた馴染みの物を設置し精神的にも日常生活面でも落ち着かれる様に家族と共に行っている。又、サービス内容にも入所前の生活習慣を取り入れたサービスを作成している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に食事を作ったり、菜園での作物栽培等で、意見やアドバイスを頂き、完成時や秋の収穫等で一緒に喜びを分かち合い、お互いに、達成感を感じたりする事により支え合う関係を作る様努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に訪問出来る雰囲気作りに努め、定期的な面会を促し、相談等については最善を尽くし、利用者を共に支えていける様努めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族にもホームの行事に積極的に参加して頂き、交流を深め、依り良い関係の維持に努めている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族が外泊や外出を希望した時は、スムーズに出来る様に配慮している。又、家族の面会時は、落ち着いた環境で会話が出来る様にしている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事前後等の準備や後片付けを職員が間に入る事で、利用者も体調に合わせ支えあえる様になってきている。毎日のお茶の時間は、利用者同士が声を掛け合って準備をし共に時間を過ごす事により交流が出来ている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	担当ケアマネと連帯を図り、本人や家族に係る情報交換が出来る様、対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや暮らし方を受け入れる様努めながらも、孤立する事が無い様、全職員が配慮している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービス利用の経過状態の把握に努め、馴染み慣れた生活環境を取り入れたケアが出来る様努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活歴を把握する事に努め、落ち着いた日々が送れる様支援している。利用者個人の生活リズムを基に孤立せず生活が送れるようにケアをしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向は、事前に尋ね必要に応じて主治医より生活上の注意点を確認しケアプランを作成している。又、カンファレンス時内容の検討をし、職員の意見や家族の要望を取り入れている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを実施し、病状の変化や日常生活面に変化があったときは、随時再アセスメントをしプランを変更している。変更時は必ず、家族に同意を頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録は毎日記入し、確実に申し送る事により情報を共有しプラン作成に反映するようにしている。		
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人からの要望については、相談に応じて支援出来る様努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	手踊りの先生や近所の理髪店が施設に来設する形で協力を得ている。	○	手踊りの先生は毎週木曜日にボランティアで来て頂いている。又、不定期ではあるが、歌のボランティアもH21. 2. 1から来設している。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	個別担当の居宅支援事業所と情報交換し、連携を図っている。施設見学や概要説明等も随時受け入れている。又、病状に応じて医療機関のケースワーカーとの面談等も実施している。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市や社会福祉協議会等と連携を図り協力して行く。地域包括支援センターとの協働はされていない。	○	今後地域包括支援センターの方との情報交換のような事を行って行きたいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、本人や家族の希望する医療機関へ受診する様にしている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者全員が専門医へ定期的に受診している。緊急受診も可能である。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護を週2回実施しており、相談や助言を受けている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時安心して治療を受け、退院出来る様病院との情報交換や退院後の相談にも努めている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	特養への申請手続き併用しながら、利用されている方もいる。癌疾患があっても出来る限りホームでの生活が出来る様、家族・医療機関・訪看・スタッフと共に連携対応している。	○	治療重視段階までゆっくりホームで、その人らしく生活し精神的に充実した日々が送れる様支援・援助をしたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師の指示があれば、治療食・栄養補助食品等、本人の治療の為に、スタッフ一同取り組み協力している。急変時に備え担当医・家族・本人と話し合いをもつ様にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人・家族・担当ケアマネと十分な話し合いをし、納得のいく希望の入所先を確保出来る様支援している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居前に担当ケアマネや家族より情報提供をして頂いており、個人のプライバシーを守り、記録対応している。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の希望・自己決定を尊重し、本人の意思・機能に合わせた支援を心がけている。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一緒に買い物へ出掛けるよう対応したり、個々の生活ペースに沿ったケアが出来る様支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の希望により、散髪は理容所に来てもらい、本人の意に叶う様散髪してもらっている。又、希望時は外出し、パーマ・毛染めも行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後の準備や調理の下ごしらえ、食事の後片付けまで体調に合わせ、手伝って頂いている。その際、職員との会話をする事で、気分転換が図れる様支援している。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望により、デパート・スーパーへの買い物は、職員が同伴する事により支援している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄状況を把握し、トイレ誘導する事により、オムツ使用を減らし気持ち良く排泄が出来る様支援及び援助している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は月・水・金曜日としているが、受診等の関係でその人に合わせるようにしている。可能な限り、希望の時間・順番で入浴が来る様に配慮している。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	適度な軽運動を取り入れたり、一緒に興味あるテレビを見たりする事で、安眠出来る様支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節感を味わえる様な桜祭り・ねぶた祭りや、地域でのイベントへ出かけたりし、気分転換が図れる様支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ出かける際には、本人へ財布を渡し一人で支払いが出来る様支援し帰居後もレシート・残金を確認してもらっている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑・庭園の手入れやホーム周辺の散策・買い物等一人ひとりのペースに合わせた対応をし、気分転換を図るようにしている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族から外出希望があった時は、出かけられるよう支援している。年間の行事に社会見学の形で取り組んでいる。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話での対応や手紙等も出せるよう家族にも協力を得ている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室・ホール・面談室にて、面会が出来る様に常に開放している。又、小さいお子様がいらした時などは、職員が声をかけ、利用者と一緒に家族でおやつが食べられるよう、配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない。してはならない事をモットーに対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けずに自由に出入りしている。又、一人ひとりの所在確認の徹底を図っている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時、見守りしやすい場所で、関わりを持つ対応を心がけている。所在確認と安全な状況確保に配慮している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な所（薬・洗剤・包丁の保管場所）には、鍵を掛け、必要時に取り出すようにしている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬防止の為、マニュアルを作成し、事故にならない様努めている。又、同じ事を繰り返さないよう、ヒヤリハット・事故報告書を作成し、全職員が情報を共有し事故防止に取り組んでいる。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時等の対応・事故防止について、研修会を実施し全職員が的確な対応が出来る様、努力している。マニュアルも作成し、常に見える場所に置いてある。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に施設内での訓練は実施している。地域推進会議などで、働きかけて行きたい。	○	年2回の避難訓練を実施している。今後、施設周囲の地域の方々の協力を働きかけて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時状況に応じて考えられるリスク等に関しては、家族と話し合い、説明する事により理解を得るようにしている。又、主治医からの説明も必要に応じて、行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常時、状態変化には落ち着いて、的確に対応できる様心掛け、敏速な対応（処置）をしている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は全て職員が行っている。処方された薬の内容や副作用についての書面を介護カルテにファイルし常に全職員が見れる常態にし、副作用の出現に注意し観察している。出現時は、医師に報告し指示を得る。又、誤薬防止に努めている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事・水分・軽運動を勧める事で排泄がスムーズに出来る様援助し、排泄記録をおこなっている。医師からの処方がある時は服薬介助をしている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後・職員見守りにて、歯磨きの支援をしている。夕食後には、義歯使用者は、洗浄剤を使用し口腔内の清潔保持に努めている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の1日の水分摂取量の把握に努めている。（記録をしている。）食事摂取量は全利用者を観察し記録をする事で、栄養バランスを保つ様支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	玄関に手指消毒液・マスクを設置している。インフルエンザワクチンの予防接種は、入居者及び全職員が接種している。又、感染症予防のマニュアル作成し理解している。施設内研修として、インフルエンザ・ノロウイルスに関しては、全職員へプリントを配布している。手洗いの徹底を実施している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理は2時間前より開始する様にしている。調理に入る時点で、手洗いを充分に行い、調理器具使用前には、除菌用アルコール使用。和え物料理などの時は、使い捨て手袋を使用し、衛生面に配慮している。台所周りや冷蔵庫内の除菌についても、定期的の実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、造園・畑等があり、利用者や家族・業者の方々より助言を受けるなど、会話の一つになっている。又、スロープを利用し、車椅子の利用者もスムーズに安心して利用している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には、季節にあったディスプレイをし、施設内でも季節感が得られる様工夫している。ホールは常に利用者が寛ぐことが出来る様に配慮している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの生活パターンを把握しており、テーブル席や廊下、面談室の椅子も開放し使っていたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、いつも使い慣れた物や馴染みの物が、持ち込み可能である。(テレビ・冷蔵庫・家具)出来る限り本人が居心地良く過ごせる様支援している。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホール・居室の一部に湿度計を設置し、配慮している。トイレ・廊下・各部屋には換気扇が設置してある。冬場は、ホールに加湿器を2台置き、適度の湿度が保つ様に努力をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は段差がなく、廊下・トイレ・脱衣所・浴室・階段には手摺りを設置。浴室には、滑り止めマットや補助用手摺りを設置。身体機能に合わせた物を考慮している。トイレドアを一部撤去し、カーテン使用へ変更している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口に各自好みの、のれんを掛けているが、自室を覚えられない方については、プレートを一時的につける様対応し、覚えた時点で、本人と話し合い、外すようにしている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前に、庭園・畑等があり、入居者と共に手入れや収穫等を行っている。草取りも利用者が気かけられ、一緒に行うようにしている。		



部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 毎食前に誤嚥防止の為、嚥下体操（軽度の体操と早口言葉）を実施している。又、下肢筋力低下防止の為、廊下歩行を取り入れるなど、日常リハビリを意識的に行っている。
- ・ 共同生活をする上で、利用者がその人らしく日常生活を送る事が出来る様、QOLの質の向上に努め常に利用者の立場になり、日常の業務にあたっている。